

谷小唄の由来

平成10年 永井止女

谷村が赤名町と合併（昭和28年、1953）する2年前頃、是非谷村の事、谷の名所、旧跡、伝説や名物、四季の移り変わり等、谷の事を歌で綴り小唄として後世に残そうと一般に応募がありました。その応募に私の主人も応募しました。審査の結果、主人の作品が選ばれて作詞者永井忠博となったのです。この唄を作った時、主人は26歳、結婚して4年目でした。

各地の有名な小唄の本を集め参考にしておりました。その小唄の本を開いてる処へ当時3歳だった息子が部屋に入って混ぜ返し集中できず困った事も度々ありました。又、いきずまった時などは、私にも時々相談を持ちかけたりして苦心して作った唄です。唄の内容は、春、夏、秋、冬、と四季に分け3首ずつ、12番までと成っています。

（春）長かった冬もようやくなごみ、谷間の雪もやっと消えて梅の小枝で鳴いているうぐいすの声は、丁度やさしいあの娘の歌声の様に聞こえてきます。やがて桜の花の咲く3月、月を眺めながら昔を偲ぶと程倉城が思われるのです。今はサイレンの有る山と成っていますが、昔は尼子の出城が有った城址です。そこに桜吹雪がはかなく散って行く様子を唄いました。

（夏）谷は都賀を流れる江川の影響で夏は霧が大変深く丁度一面海の様でその中を泳いで行く様にみえます。又、谷の小川はとても水がきれいで、かじかが鳴いたり、蛍が飛び交い昔は多くの子供達が川遊びに興じていました。現在は塩谷川で7月にヤマメの掴み取りを行い、日中子供達の元気な歓声が響いています。次はみさきぷろです、これは桂の森（塩谷上）の事で大きな桂の大木があり、その根元には蛇神さんを祭った小さい祠が有りました。其の木の下を通る時夏などひんやりと涼しく皆そこで一休みし、涼んで居たものです。

（秋）秋になれば稲穂が黄金色に実りそして深まるにつれ木の葉が紅葉し、山が薄化粧した様にきれいになります。又豊作を祝って村祭りがあります。きれいに着飾って打つ「楽打」の笛や太鼓、また口拍子のおはやしが山へこだまして一層お祭り気分も盛り上がります。畑田かぶについて、今ではまぼろしの畑田かぶになりましたが、それは煮て良し、生でよし何にしても、味良しの畑田かぶは有名でした。一時は都賀や赤名からでも龍や荷車で、漬物用にする畑田かぶを買いにたくさんの方が来ていたものです。

（冬）昔は大雪が降って三尺、四尺（1m以上、1尺は約38cm）も積もった事があります。その雪も谷の人は人情が厚く親切でやさしく、その暖かい心で積もった雪はみな解けてしまうのです。中でも雪の深いのは程原で雪景色が美しいところです。程原と言えば程原入道さんが有名です。今は程原神社ですが、昔源平合戦の時、弓の名人、平教経（能登の守）の奥さんが山坂を越えてたどり着いたと言う、平家落人の里になっています。その人は「本当の名前を決して言うてはならない、有名な方の奥さん」と言う事で遊名御前と呼んで居たそうです。

（作曲）この唄を作曲してくださったのは、難波正先生と言われ、塩谷（前中間）出身の方で、当時は岡山大学で音楽を指導して居られた先生です。

（踊）谷村と赤名町とが合併してから4年後、赤名町と来島村とが合併（昭和32

年1月1日)して赤来町が誕生しました。

それを記念して赤来音頭ができました、その赤来音頭に踊を付ける事に成り、その振り付けが日本でも一流の踊の家元、花柳流の花柳多寿弥先生によって振付されました。そのとき谷小唄にも踊をと、高額な振付料を支払って依頼して今の踊ができました。ちなみに小唄としては、赤名にも来島にもありますが踊があるのは谷小唄だけです。

一時期盆踊りに、赤来音頭が踊られ谷小唄が踊られなくなった時がありました。

私は大変残念に思い盆踊りの度に公民館に呼び掛けて、10年位前より再び踊られる様になりました。そのとき、踊りが少々複雑で踊りにくい事や、テープが無い事等から何とか踊りの振り付けを記録したり、録音を残しておきたいと思い立ちました。

その頃小学校の鳥谷先生が音楽に堪能な方と聞いて、早速夏休みに小学校へお願いして、鳥谷先生がピアノを弾いてくださり、歌い手は山下さん(用務員さん)が上手にいい声で歌われるのでお願いし、合いの手は小学校の児童6~7人で歌い、婦人会からは、4~5人出て実際に歌に合わせて踊りながら練習し、半日掛かりでやっと録音をすることができました。そして、数年後、荒金先生のパソコンで笛や太鼓の音色にしたら、尚一層小唄らしくなるのではと言う事で、また以前録音した時の様にメンバーを揃え練習を重ねて、その本番を録音中最後の一番と言う時に成ってテープが無くなり全員が、がっかりした事もありました。

その後、その小唄の録音は野田先生が今までのテープを参考にパソコンを駆使してCDにしてくださり完成しました。結局小唄の録音を思い付いてから7~8年掛けてやっと完成した事に成ります。踊りの振り付けについても折角振り付けされた踊りですのでいつまでも忘れず伝承して行ける様にとの思いから、人に聞いたり、思い出したりしながら赤来音戸の絵を参考にして、なんとか書き上げました。おかげさまで盆踊りには2年続いて、にぎやかに大勢の皆さんに踊っていただく事ができました。この様に紆余曲折を経て育って来た谷小唄です。何時までも忘れる事無く、歌い続け踊り続けていってほしいと思います。